

## クリスマスを迎える

アダム・クジャク

11月27日からカトリック教会の典礼でアドベント（ラテン語 Adventus - 来る）即ち待降節が始まりました。クリスマスまでのこの4週間にキリストの誕生を清い心で待つ時期です。待降節はもう一つ意味があります。即ち世の終わりの時にイエスは再び地上に来られることです。待降節が始まる時、いつも目を覚まして祈っていなさいと言う勧めをよく聞きます。私たちがいくら目覚めて、注意していたとしても、盗人が夜やって来るように、世の終わりの日は来るのです。心の準備をする最善の方法は、どうしたらもっとイエスに似た者となることができるか探し求めながら、自分の生き方に注意していることでしょう。待降節は自分の信仰を深めるための恵みの時期です。仮にイエスが今この世に帰って来られるとしたら、自分の生活の中で恥じ入ったり、居心地が悪いようなところがないかどうか、また主に喜ばれないようなことが心に潜んでいるかどうか、自分に尋ねてみましょう。もしイエスが今ここに帰って来られた時、あなたが腹を立てているところを見られたくなければ、この待降節の間、人に辛辣な言葉を投げつけないように気をつけ、キリストの平和をしっかりと保つように決心することです。キリストの再臨は一日限りの出来事ではないことを私たちに教えています。むしろ、それは一見したところ光と闇との間で永遠に続く戦いです。この戦いは悪魔が最初に天国から追放されて以来、続いています。悪魔の狙いは全人類、被造物すべてを屈服させるまでこの戦いを続けることです。しかしながら、悪魔が計算に入れていなかったのは神の忍耐力です。神は常に変わることなく居られます。私たちが皆罪を犯しても、闇に飲み込み込まれても、その忍耐強さは失われることはありません。神はご自分の民に対して常に慈しみ深く、憐れみに満ち、恵み溢れるお方です。この世を見捨てて悪魔に渡すようなことは決してなさいません。また私たちが互いに滅ぼし合うこともお許しになりません。神は忍耐強く「一人も滅びないで皆が悔い改めるように」待っておられるのです。キリストの再臨について考えるとき、私たちには二つの選択肢があります。恐怖に駆られて途方に暮れるか、福音の真理を思い起こすかです。神はすべてのことを支配してコントロールしておられます。私たちはキリストの内に全く安全で安心することができます。私たちは自分たちの信じている方を知っています。私たちが愛するあまり死んでくださったイエスです。イエスは再臨なさるまで私たちを守ってくださいます。私たちは信頼と希望をイエスに託すことができます。ですから、再臨の前にイエスが話されたような戦争、地震、災害があっても、希望をしっかりとついで

しょう。イエスはたえず安心させ支えてくださいます。「怯えてはならない」「あなた方の髪の毛の一本も決してなくならない」と。キリストにおいて、信仰と従順を通して、私たちを決して独りにはさせておかれませぬ。ですから心を主に上げて、すべてをいつでもどんなときも、主の満ちあふれる愛に委ねましょ